

私の探鳥地（52）（野鳥だより147号2007年3月）

## 青葉公園（千歳市）

島崎 康 広

青葉公園は、千歳市街地の南東部に位置し、約102ヘクタールの面積に多数の運動施設が整備された総合公園であるにもかかわらず、支笏湖からの森林地帯がつながっていることもあり、比較的森林が保たれ、年間を通して様々な野生の動植物を見ることができます。

青葉公園といってもママチ川や千歳川の公園に接している部分をも含めていますが、樹木は広葉樹も針葉樹もあり、市街地に近く、公園自体が高台となっていて、また千歳市の地理的特徴で、春と秋の渡りには中継地にもなり、年間を通して多くの野鳥が見られます。そのため、公園に接してある千歳神社の入口の看板には千歳市内で確認された野鳥は110種と書かれているのですが、この10年間で万年初心者の域を出ない私が公園に接しているママチ川と千歳川を含めて約80種類の野鳥を確認しています（上空通過のマガンやヒシクイも含んでいます）。

見られる野鳥の中心は、森林の野鳥になると思いますが、4月中旬～5月中旬には、駐車場として利用している市立図書館前の駐車場に着いたとたんにクロツグミ、アオジ、オオルリ等の澄んだ歌声が聞こえてきます。歌声に押されるように少し中に入ると、アカハラ、コムドリや青葉公園に多いと言われているキビタキが見られ、千歳川河畔に降りれば、キセキレイやカワセミに出会えます。

逆に、マイナス20度になる厳冬期には、カラ類やキツツキ類が中心になりますが、レンジヤクやクマガラにも出会えるかもしれませんし、上空をオジロワシやオオワシが舞っていることもあります。千歳川では、マガモの他にキンクロハジロ、ホオジロガモ、カワアイサ、ミコアイサ、千歳市の鳥になっているヤマセミなどが見られます。

また、冬には歩くスキーのコースが出来、競技練習の邪魔にならないように気をつけての鳥見になりますが、一番長い8キロコースは、この時期にしか入ることが出来ない私有地の森林にも入ることが出来、野鳥の種類が増えます。

春と秋は、渡りの途中のクロジ、シロハラやエゾビタキ等に出会える可能性があり、上空ではオオハクチョウ、ヒシクイ等が見られるというように、真夏の緑の生い茂る頃以外は、1年を通して野鳥を楽しめます。

私がいつも歩くコースは、駐車場から千歳神社周辺やママチ川周辺を歩き、北側の散策路を歩き、途中、公園から「おはよう橋」に降り、千歳川の河畔で野鳥を楽しみ、そして公園内に戻り、時間によっては西に向かって高速道路まで歩き、南側の散策路から駐車場に戻るか、おはよう橋からすぐに公園内を縦断して南側の散策路から駐車場に戻ります。

1時間から3時間のコースになりますが、時間がないときには、公園の入口付近を30分歩くだけでも十分に楽しめます。また、穴場としては市内から支笏湖へ向かう途中の「てんぐの蔵」というおそば屋さんから左に入ると林東公園という、昔、市民の方が自然保護を条件に市に寄付された土地があり、千歳川を挟んで反対側が青葉公園になっていることも影響しているのか、歩いても30分程の公園ですが、歩いて損はないと思います。近年、周辺で越冬したと思われるアオジやホオジロが見られています。

住宅街のすぐ前に豊富な自然が残されているのは、誇りに思いますが、支笏湖へ続く森林や千歳川の環境が保たれているからこそだと思うので、いつまでも季節に応じた野鳥を楽しませて欲しいと願います。